

報 告



第20回医学情報サービス研究大会参加記

春日井 泉江

すっかり初夏の風物詩となった医学情報サービス研究大会が、2003年7月12日（土）～13日（日）、京都で開催されました。折しも京都は祇園祭の期間中で、開催日には、メイン行事の一つである山鉦巡行の鉦や山も立ち始め、町全体がにぎやかな雰囲気に包まれていました。当日は、あいにくの梅雨空となりましたが、会場の京都府立医科大学附属図書館・合同講義棟（図書館ホール）には、全国から多数の参加者が集い、活気に溢れていました。

プログラムは一般演題13題、ポスターセッション4題の研究発表に加え、継続教育講演、第20回大会記念講演、特別講演、シンポジウム、と盛りだくさんの内容でした。大学図書館、病院図書室、そのほかいろいろな立場の参加者による自由な発表は、身近な話題から初めて聞くことまでさまざまで、日常業務をただこなしていくだけでは身に付かない、プラスαの知識の大切さを感じました。そして、現状に留まることなく自主的に研究を重ねていく、皆さんの熱心な姿を間近に見ることは、同じく医学情報サービスにかかわる者として、良い刺激になりました。

昼休憩を兼ねて、メイン会場に隣接する看護学科棟において、ポスターセッション、プロダクトレビューが行われました。また同時に、同じ棟の別室では、参加企業14社による展示も行われており、興味の尽きない、とても忙しい2日間でした。

大会プログラム以外にも、いくつかのイベントがありました。1日めの夜には懇親会が開かれ、生バンドによる演奏など、趣向を凝らした催しで楽しませていただきました。そして、2日めの朝には、モーニング・セッションとして、昨年に引き続きエディターズミーティングが開かれ、会誌「病院図書館」編集部からは3名が参加しました。大会開始前の1時間、コーヒーをいただきながらのくだけたスタイルで、雑誌編集における今日的なお話を聞き、質疑応答が行われました。

実行委員をはじめ、関係者の方々の努力と工夫により、手作りで開催される医学情報サービス研究大会には、ほかの大会にはない独特の雰囲気があると言います。そして、その魅力にはまった人たちがリピーターとなり、毎年、全国各地で開催されてきたそうです。第20回という節目の年にあたる今年、特に盛大で、総参加者数は270名とのことでした。来年（第21回大会）は東京で開催される予定とのことなので、またぜひ参加できればと思います。

